

共通プラットフォームWG の活動

2021/05/19

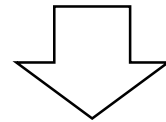
(株) ファインデックス

宮川 カ

共通プラットフォームWG

ワーキングの目的

共通プラットフォーム構築指針に基づいて、次世代健康医療記録システムを実現するために必要な機能洗い出し、および外部とのインタフェース設計を行うこと



- 2020年9月からワーキングを開始
- 電子カルテ、部門システム、臨床研究等の行っている企業から10名前後で行われています。新型コロナの影響もありネットワーク形式の会議を行っています。

活動内容

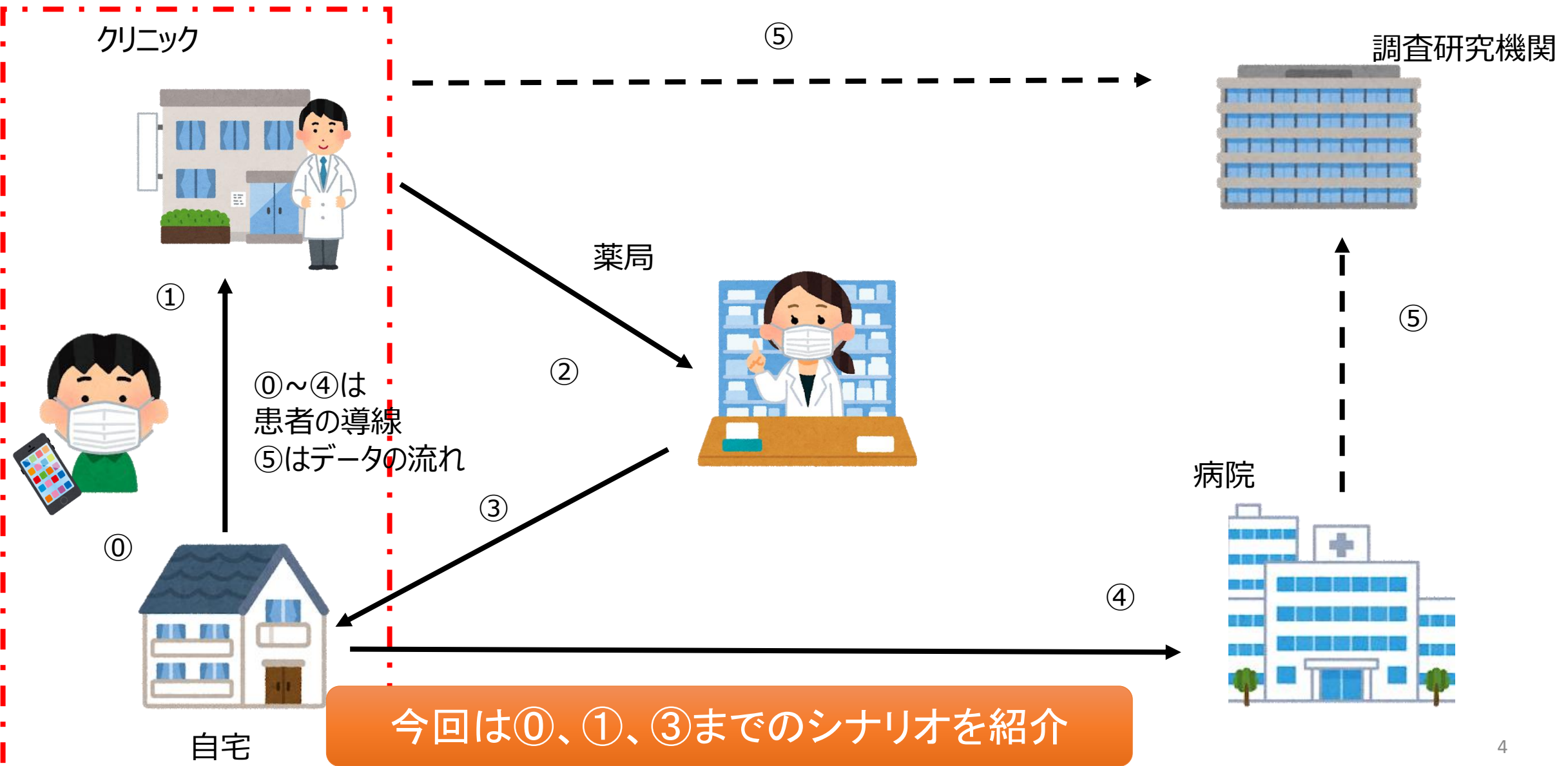
フェーズ1

- 2021年9月~12月
- 構築指針から実現可能なストーリーの中で、患者が病気に罹ったときのケースについてその特徴を表すシナリオを作成しました。

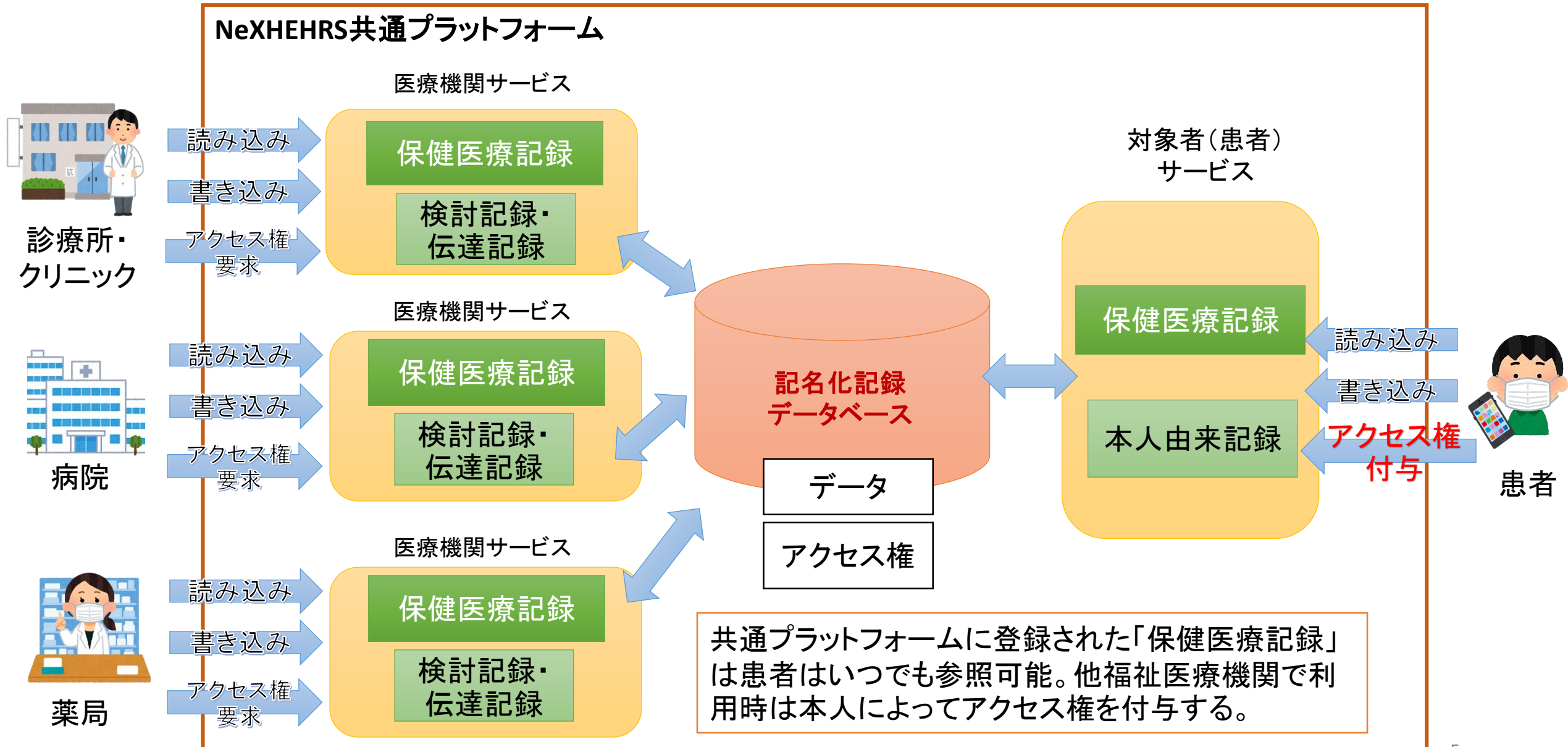
フェーズ2

- 2021年3月~ 現在実施中
- フェーズ1のシナリオをより詳細に検討し、技術的に必要な要件の洗い出しを行いました。

シナリオ紹介 クリニックから病院へ



対象者（患者）主体のデータ管理



シナリオ① 事前準備

- スマートフォン or Web(以下スマホ) からの**アカウント作成**
 - 本人情報 (氏名、生年月日、連絡先、血液型)
 - 本人確認情報 (健康保険証もしくはマイナンバーカード) との紐づけ
- NeXEHRSS対応サービス事業者 (以下サービス事業者) に加入している**医療機関の地図アプリからの検索**、クリニックを選択し予約する。
- クリニックより患者が管理する「**保健医療記録**」や「**本人由来記録**」に**アクセスを求めるメッセージ**が届き、これを承認する。
- 本人は事前クリニックに行く前に、スマホより**病歴**や**アレルギー**や**感染症**などの情報を入力した。また**健康診断結果**をカメラに撮り、登録した。
- 加入済みのお薬手帳等の**PHRサービス**と連携し、現在服薬中の情報をプラットフォームに取り込んだ。

シナリオ① クリニック

- 患者はクリニック到着すると、事前入力の情報より初診窓口での手続きが簡略化され、本人確認のみで診察可能となった。
- 医師は、事前入力の情報を確認し、診察室へ呼び出しを行う。
- 診察の結果、精密検査が必要なため病院への紹介状および症状緩和のための薬を処方箋を作成した。また電子カルテに診療内容の記録を行った。
 - 紹介状の、処方箋、診察記事について、「保健医療記録」として共通プラットフォームに格納された。

シナリオ③ 自宅

- 患者は改めてスマホよりクリニックにて記載された**診察記事**、薬局で出された**お薬手帳**に関する情報を参照した。
- 紹介状に関する通知を受け取っており、紹介先に**紹介状送付**に関する確認が来ていたためこれを承認するとともに検査の予約を行った。
- 紹介先の病院より、患者が管理する「**保健医療記録**」や「**本人由来記録**」に**アクセスを求めるメッセージ**が届いた。患者はクリニックに関する情報は今回の病気に限定した形で公開する形で承認した。
- 紹介先の病院より、**検査に関する書類**（説明、問診、同意書）が送られてくるとともに、オンラインでの説明の日程調整の案内が到着した。

想定される効果

- 患者に選択による情報開示
 - 公開・非公開を患者側で選択可能
- 手間の削減
 - 患者のプロファイル情報は毎回入力せずに済む
 - 医療機関側も、問診票の確認や取込等の手間は省ける
 - 紙媒体の削減
- 診療の質の向上
 - 事前に患者状態を把握可能
 - 患者状態（病歴、アレルギー、感染症等）の伝え忘れの防止

今後課題

➤フェーズ2

- データアクセス権の管理を中心に、フェーズ1で検討したシナリオの実現方法について詳細化を行っております。
- 臨床研究利用の仕組みも検討してゆきます。

➤今後

- 方針は決まっていますが、具体的なプログラムの実装やストーリーの幅（リハビリや福祉施設、在宅医療との連携等）を広げること考えています。